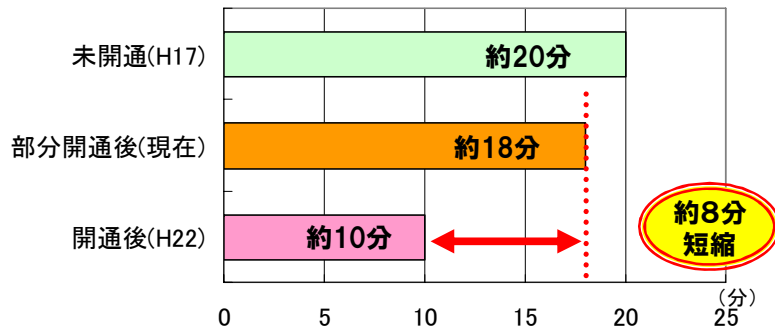


(1) 時間短縮効果

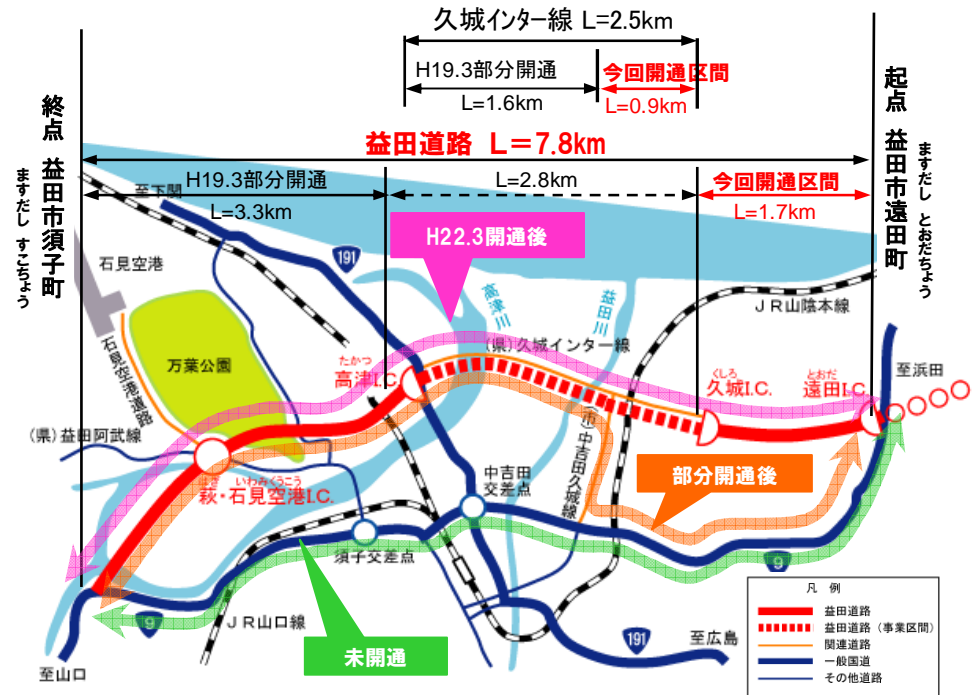
■ 益田道路と久城インター線の整備により、円滑な交通流が確保され、益田市遠田町～須子町までの所要時間が最大で約8分短縮されます。

所要時間(混雑時)の短縮効果

● 益田道路起終点間の所要時間 (益田市遠田町～須子町)

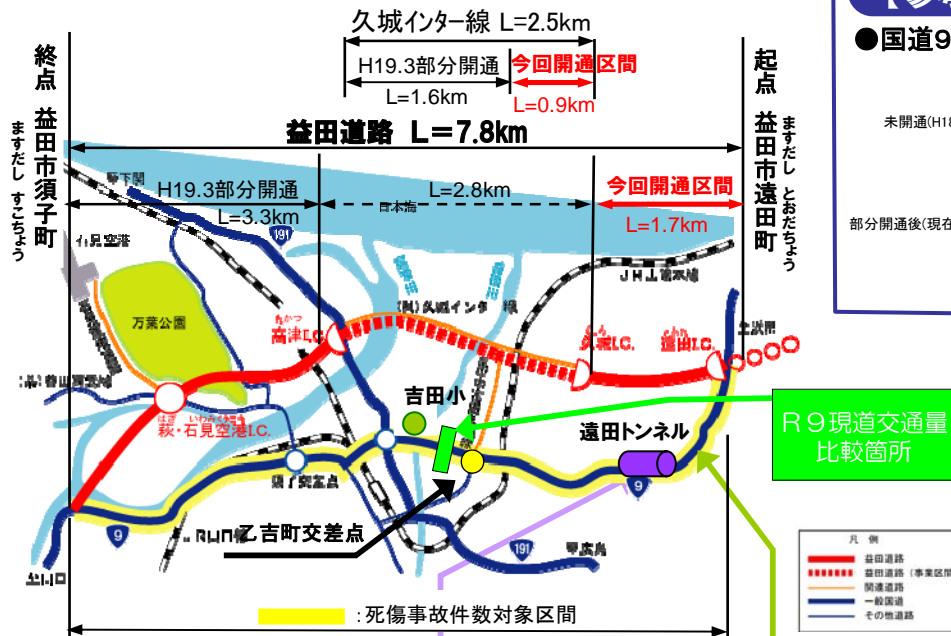


※未開通(H17): H17センサス
 ※部分開通後(現在): H21.9.29調査結果
 ※開通後(H22): H22開通区間は規制速度、部分開通区間はH21.9.29調査結果



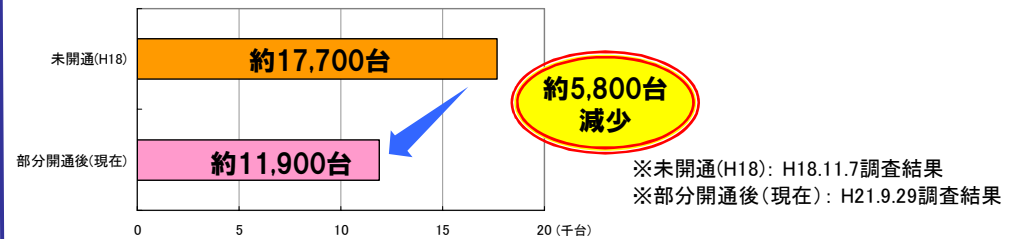
(2) 現道交通の減少による安全性の向上

- 大型車などの通過交通の転換や都市内交通の分散により、現道の交通量が減少することにより、現道の交通事故が減少し、歩行者・自転車の通行の安全性が向上します。



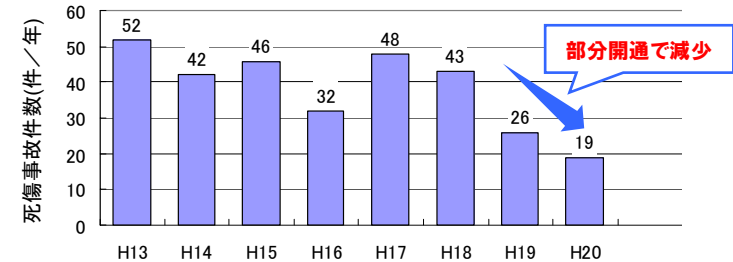
【参考】H19.3部分開通後の状況

- 国道9号現道 24時間交通量の変化(益田市乙吉町:乙吉町交差点付近)



- 現道部の死傷事故件数の減少

(国道9号 益田市遠田町～須子町間の益田道路並行区間)



※事故データは益田警察署より資料提供。

歩道と自転車道がない国道9号遠田トンネル内を自転車通行する状況 (H21.9撮影)



国道9号を通学路として登校している児童の状況 (H21.9撮影)



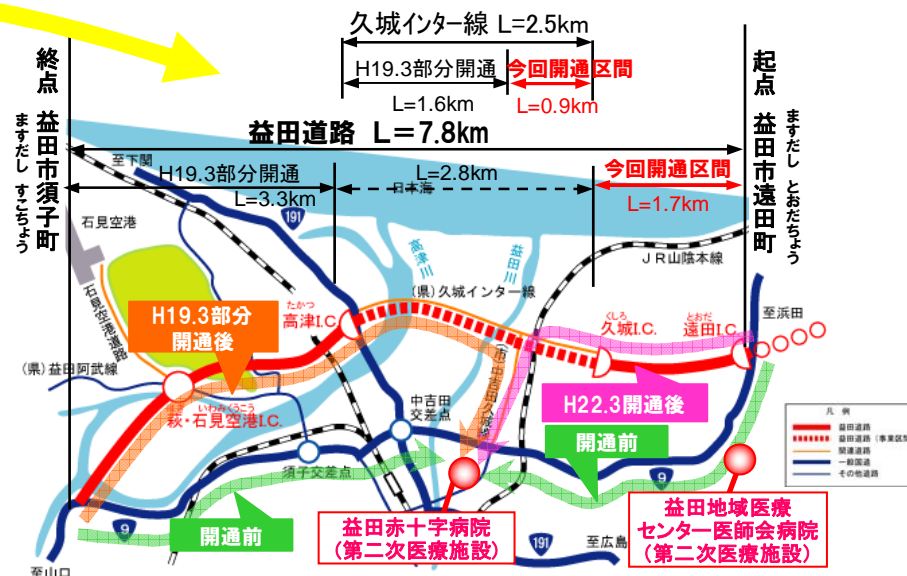
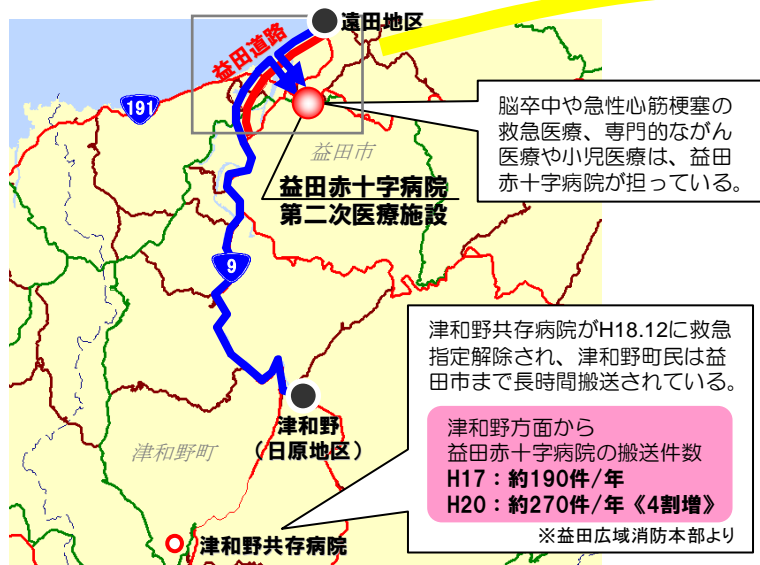
地域住民の声

- 住宅地近辺の交通量が、全線開通によって少なくなるので、**子供の通学に危険がなくなる**ように思います。(益田市中須町・女性)
- 幹線道路といっても国道9号線は**歩道が無い場所が多く、道路沿いを歩いたり、もしくは自転車で通学する児童、生徒は命がけだから、通学等の安全面を期待**しています。(益田市あけぼの町・男性)
- 通学路や生活道路の交通量が少なくなり、**安心して生活できることを期待**しています。(益田市木部町・男性)

(3) 緊急医療活動支援

- 救急患者を益田赤十字病院等、第二次医療施設まで緊急搬送する場合、両路線を利用することで、安静搬送が可能となり、患者の負担軽減等救急医療活動へ寄与することが期待されます。

益田圏域の救急医療施設



緊急医療活動の現場の声

※益田広域消防本部より

- 津和野共存病院は救急指定を解除されたため、津和野町方面から、益田赤十字病院や医師会病院に救急搬送を余儀なくされています。
- 現在(部分開通後)も、益田道路を利用して救急搬送することがあります。救急搬送は、安静搬送と時間短縮が重要で、全線開通でさらに救急搬送に貢献すると思われます。
- 緊急医療の現場は、高機能救急車の配備、AEDの常備により1分・2分の時間短縮に努めている中、益田道路による時間短縮はもの凄く大きな効果です。

※益田赤十字病院より

- 小さな赤ちゃんが山間部(津和野・日原)で生まれる事が多く、病院に着くまでに時間がかかり、助からない事もあります。小さな命を救う為にも、道路整備が必要だと思います(益田赤十字病院はNICU(新生児集中治療室)指定)。

地域住民の声

- 救急時の移動時間の短縮をととても期待しています。(鹿足郡津和野町・女性)
- 災害でも医療でも、地方が安心して暮らせるようにしてほしい。(益田市あけぼの本町・女性)
- 病院に長時間かけて通うことは、病人にとって大変な負担が本人や家族にかかるので、早く開通してほしいです。(益田市津田町・女性)